

下水道におけるリン資源化検討会 設立趣旨

近年、中国、インド等の新興国の経済発展や、バイオ燃料ブームによる世界的な穀物増産により、肥料の原料価格が高騰しています。中でも原産国が限られるリンについては、主要原産国である中国等の輸出規制の影響等もあって、国際取引価格はここ数年間で乱高下しており、リンの全量を輸入に頼るわが国としては、長期的かつ安定的なリン資源の確保について懸念があります。

一方、下水道にはリン鉱石として輸入されるリンの約4～5割に相当するリンが流入しているとの推計がありますが、有効利用されている割合は約1割に過ぎず、今後、下水や下水汚泥からのリン回収、活用について、農業関係者等のユーザー側と連携しつつ、積極的に推進していくことが必要な状況となっています。

以上を踏まえ、国交省では平成20年度に、下水汚泥等からのリン回収に取り組んでいる、または具体的な取り組みを予定している自治体における現状や課題を把握するとともに、ユーザー側の実態やニーズ等を把握し、今後の取り組みの方向性を検討することを目的として、「下水・下水汚泥からのリン回収・活用に関する検討会」を設置し、別添のとおり論点整理を行いました。

これを踏まえ、回収リンの品質管理体制や事業展開手法等について議論を深め、下水道管理者がリン資源化事業の実施について検討するための手引きをとりまとめることを目的として「下水道におけるリン資源化検討会」を設置するものです。